

点描くんま経済

日銀支店長

見聞録

■65■

私は「高所恐怖症」だ。特に怖い体験をしたわけでもないが、高い所が苦手なのだ。でも、さまざまな所を訪れるのが好きなので、県内各地に行っているのだが、観光名所には高い所が多い。

群馬県には「ダム百選」に登録されているダムが六つあり、都道府県で一番多いのだが、その全てを見に行った。そうすると当然なのだが、高い所から下を見下ろすポイントが整備されている。これが怖い。

また、美しい山々があり、風光明媚な渓谷には「橋」が架かっている。ここを渡るのが

需要高まるロケット

山の神社。樹木に囲まれ、神様が祭られている神聖な場所。パワースポットでもある。ここにある階段は、今のよつな建設機械がないときに作られたものなので勾配が急で幅も狭く、しかも階段の表面がデコボコしている。家族は平気になり下られるのだが、私は踏み外さないようにビク

一苦労。真つすく前を見て脇目も振らず、橋の真ん中をそりそりと渡るのだ。これだけでない。上毛三山のうちの一つの

開発支える本県企業

度が高い。その理由を尋ねたところ、映像の撮影、送信、解析などの技術が進歩しており、これまでに宇宙から地球を見たデータを活用してきていること

ン(新たなものの創造)が必要だが、宇宙ビジネスは最たるものではないか。とここで、ロケットについてこれまでほとんど無知だった私は、何とつれい(ことか、

ビクと下りるのだ。そうすると、その様子を家族が階段の下で動画を撮っている。なんてこった。

なぜ、このようなことを書いたかといえは、相当高い所まで発射されるロケットを製造している真内企業を訪問したからだ。最近、宇宙ビジネスへの注目

とが増えているからとのこと。

また、衛星の打ち上げ需要に対して、ロケットの供給は圧倒的に不足しているようだ。なので、日本でも最近ロケットを打ち上げる民間企業が出てきているというのだ。う。やはり経済発展のためにイノベーション



岡山和裕(おかやま・かずひら) 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。

いたのは、その化合物も群馬県にある企業で

か製造していないこと。群馬県の製造業が宇宙開発を大きく支えているのだ。

またまた群馬県の素暗(くら)さを発見した。